



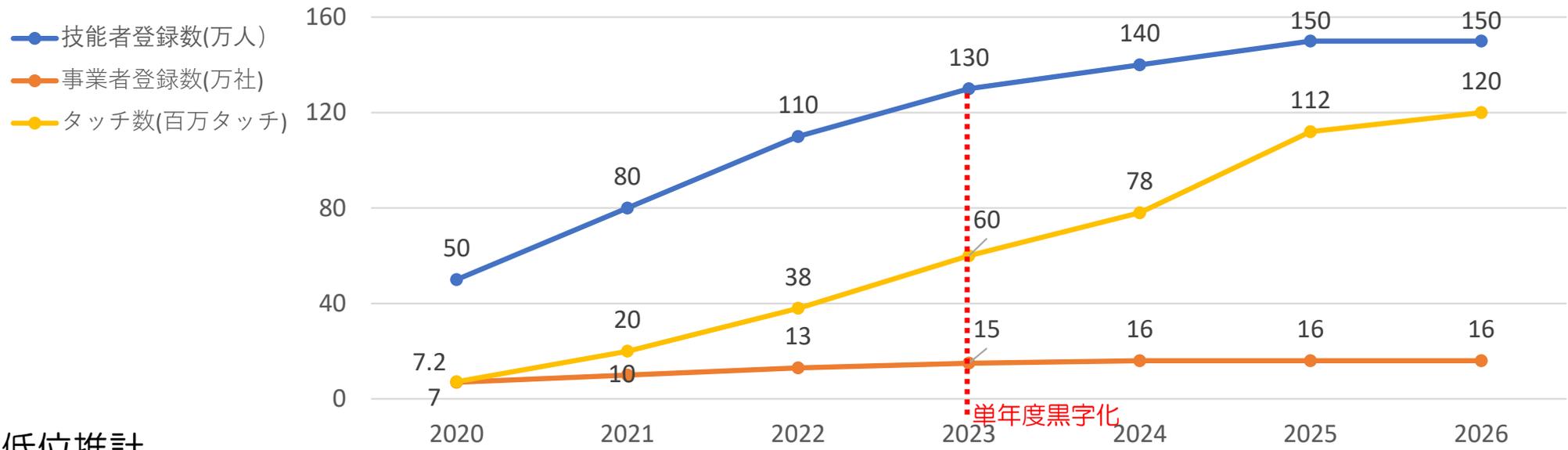
2022年3月23日補正

2023年度単年度黒字化の確実な実現に向けて -CCUS普及の新目標-

2021年3月19日
CCUS推進本部

2023年度単年度黒字化のための全体数値目標

○CCUSの累積赤字の増大を止めるため、運営協議会で決定した**2023年度以降の単年度黒字化を確実に実現**することが不可欠であり、**低位推計の各年の技能者登録数、事業者登録数、タッチ数を達成することが必要**

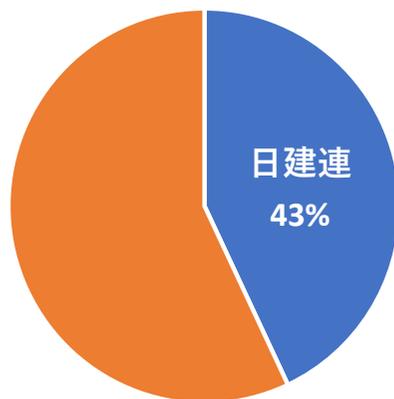


低位推計

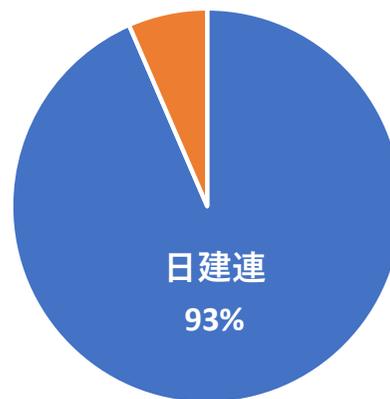
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
技能者登録数(万人)	50	80	110	130	140	150	150
事業者登録数(万社)	7	10	13	15	16	16	16
タッチ数(百万タッチ)	7.2	20	38	60	78	112	120
単年度収支(百万円)	▲1,349	▲567	▲261	438	1,559	1,489	1,440
累積赤字(百万円)	▲5,643	▲6,210	▲6,471	▲6,033	▲4,475	▲2,986	▲1,546

- 運営協議会で毎年の技能者登録数、事業者登録数、就業履歴蓄積数の目標数値が定められたが、これのみでは、各事業者団体、各事業者・各現場は具体的に何を目標とすればよいのか解らない。
- 運営協議会の数値目標を実現するためには、全体数値目標をブレイクダウンした解り易い数値目標を設定することが必要。
- このため、日建連は新目標を設定。
ただ、日建連だけが目標を達成しても単年度黒字化の実現は無理。

現場登録の割合



タッチ数の割合



(参考)元請完工高



- 日建連の目標を参考として、各事業者団体が各事業者の目標を設定するよう国交省に働きかける。
また、公共発注における義務化を推進するように、国交省及び地方公共団体等に働きかける。

日建連の新たな目標は、2023年度の単年度黒字化の前提ともなる低位推計実現のため、**最低限達成すべき数値目標（コミットメント）**と**上乗せして目指す数値目標（ターゲット）**の2種類を設定する。

日建連の新たな数値目標

最低限達成すべき数値目標
(コミットメント)

… CCUS運営協議会の数値目標達成のため、日建連の現場、及び全建設現場が達成すべき数値目標（全現場で達成すれば、低位推計が実現し、2023年度単年度黒字化を実現）

- 技能者登録・事業者登録
運営協議会の数値目標を基に計算される全体の技能者登録率、事業者登録率の目標を日建連の現場で達成
- 就業履歴蓄積数（タッチ数）
運営協議会の数値目標を国内元請完工高割合で按分(※1)して計算される日建連現場分を達成
※1 日建連の完工高割合は1/4であるが、当面、1/3に割り増して計算
- 現場登録
1億円以上の全ての現場を登録

上乗せして目指す数値目標
(ターゲット)

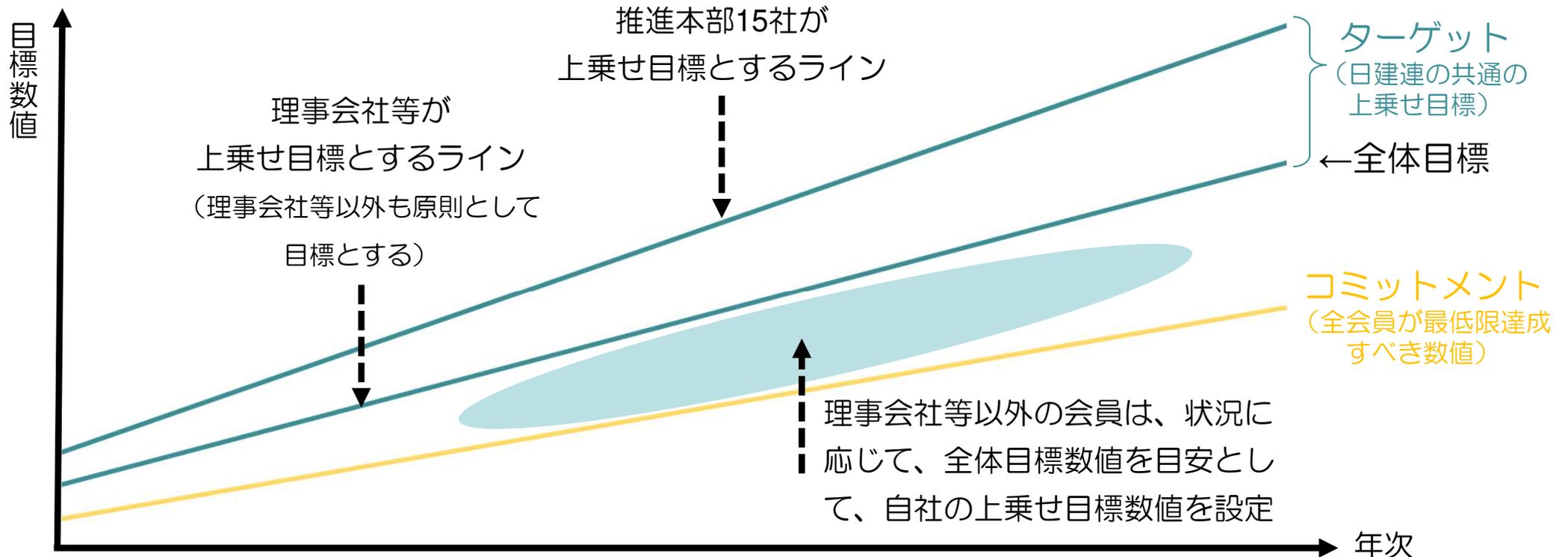
… 国土交通省の決定した官民施策パッケージ（2023年度からのあらゆる工事でのCCUS完全実施）を前提とした目指すべき数値目標

- 技能者登録・事業者登録率
2023年度中の原則化の実現を前提として、2024年度からは100%を日建連の現場で目指す。(※2)
上記の100%（近似値を含む）実現を前提に、2025年度以降は未登録者、会員会社の入場を認めないことを目指す。(※2)
- 就業履歴蓄積数（タッチ数）
コミットメントの50%増を目指す。(※2)
※2 推進本部15社についてはさらに高い目標を設定する。
- 現場登録
全ての現場(※1)を登録
※1 小規模現場に関しては、CCUS側の対応が可能となってから適用

コミットメント：日建連会員として最低限達成すべき数値。

ターゲット：各社がCCUSの普及を可能な限り図る際に、コミットメントに上乗せした目標として活用する日建連共通の数値。全体用の数値と推進本部15社用のより高い数値の2つを設定。会員各社の目標数値の活用は以下のとおり。

- ① 推進本部15社 ……15社用のより高い上乗せ目標
- ② その他理事会社等……全体目標（上記①の数値又は全体目標以上の数値を目標とすることも可）
- ③ 理事会社等以外 ……全体目標を目標とすることを原則とするが、各社の事情に鑑みコミットメントと全体目標の間で自社目標を定めることを当面認容（上記①の数値又は全体目標以上の数値を目標とすることも可）



日建連の新目標

会員企業の直近の年間国内元請完工高（2022年2月時点）に基づき2022年度以降のタッチ数目標を再計算（2022.03.23）

			2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
技能者登録率 <small>（作業員名簿に記載された技能者の技能者登録率）</small>	最低限達成すべき数値		15%	25%	35%	41%	45%	49% (51%)※1	50% (55%)※1	
	上乗せ 目標数値	全社	15%	36%	58%	79%	100%	100%※2	100%※2	
		推進本部15社	15%	43%	72%	100%	100%※2	100%※2	100%※2	
事業者登録率 <small>（施工体系図に記載された事業者の事業者登録率）</small>	最低限達成すべき数値		37%	52%	68%	79%	84%	84%	84%	
	上乗せ 目標数値	全社	37%	53%	69%	84%	100%	100%※3	100%※3	
		推進本部15社	37%	58%	79%	100%	100%※3	100%※3	100%※3	
現場登録 <small>（推進方策2020）</small>	最低限達成すべき数値		請負金額1億円以上のすべての建設現場							
	上乗せ目標数値		すべての建設現場※4							
タッチ数	最低限達成すべき数値		国内元請完工高 10億円あたりのタッチ数	163	452	914	1,443	1,876	2,693	2,886
	上乗せ 目標数値	全社	国内元請完工高 10億円あたりのタッチ数	244	678	1,371	2,164	2,813	4,040	4,328
		推進本部 15社	国内元請完工高10億あたりのタッチ数（単月）について、前年同月のトップランナーの50%又は全社の目標数値のいずれか高い方を最低ラインとし、可能な限りトップランナーに近づくことを目指す							

2023年度単年度黒字化のため
日建連現場で果たすべき数値

2023年度単年度黒字化の前提
となる低位推計の数値

- ※1 タッチ数の上乗せ目標数値達成のためには最低この数値が必要
- ※2 カードを保有しない技能者の入場は原則として認めない
- ※3 未登録事業者の入場は原則として認めない
- ※4 小規模現場に関しては、CCUS側の対応が可能となってから適用

参考：国交省低位推計

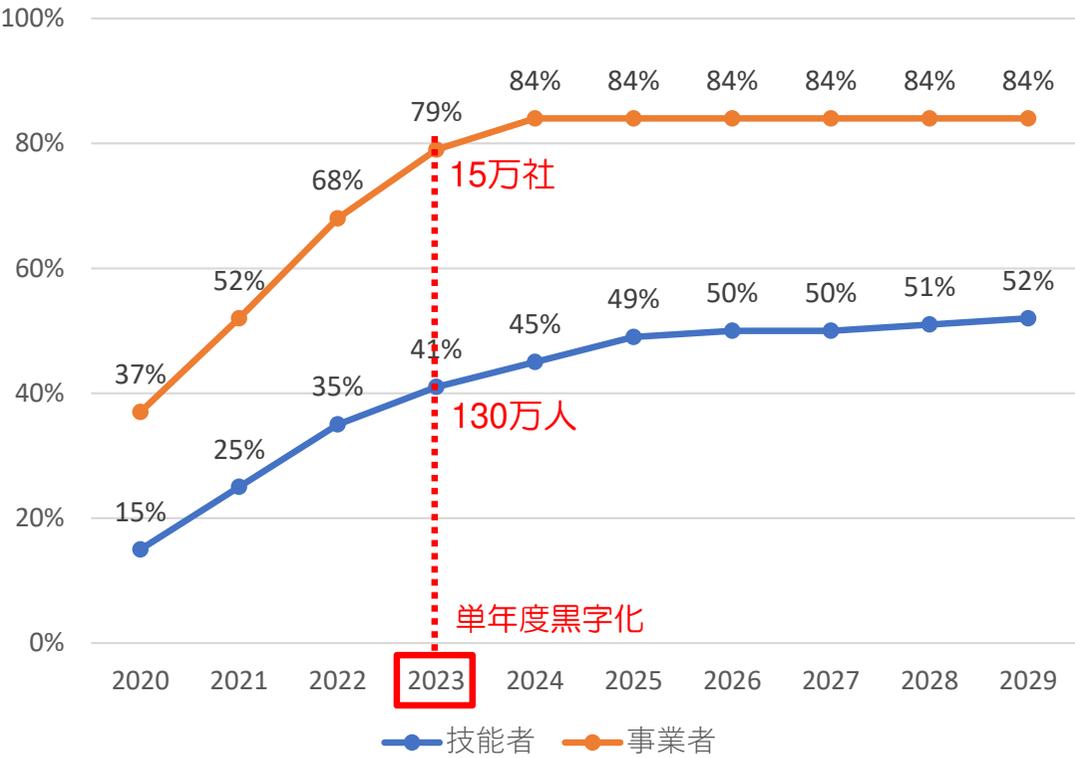
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
技能者登録数(万人)	50	80	110	130	140	150	150
事業者登録数(万社)	7	10	13	15	16	16	16
タッチ数(百万タッチ)	7.2	20	38	60	78	112	120

2023年度単年度黒字化のための数値目標(国交省を通じ他団体へ要請)

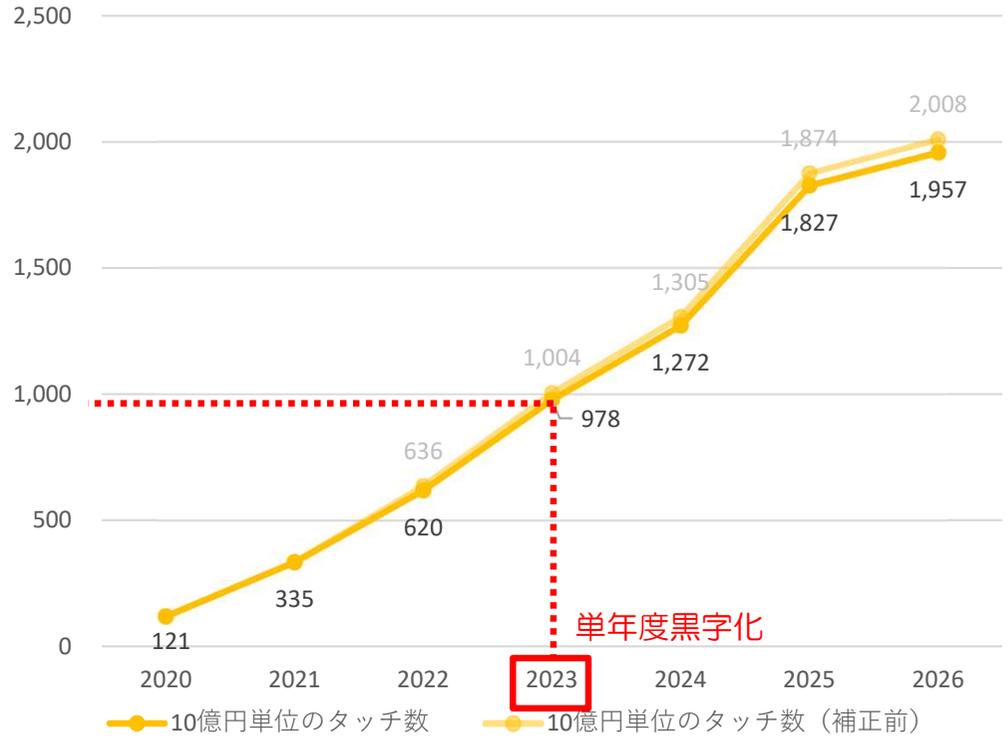
○低位推計の数値を実現するためには、全建設技能者、全建設事業者、全事業者団体の一丸となった取り組みが不可欠。全ての建設現場で下のグラフの入場事業者・技能者の登録率、単位完工高当たりのタッチ数が達成されれば、低位推計の目標数値は実現される。

○国土交通省及び建設業振興基金においては、全技能者、全事業者、全関係団体に対して、下記の目標を共有し、目標達成に取り組む体制の整備をお願いする。

- 全ての現場において以下の割合以上の登録技能者・登録事業者が存在するよう加入促進をすること



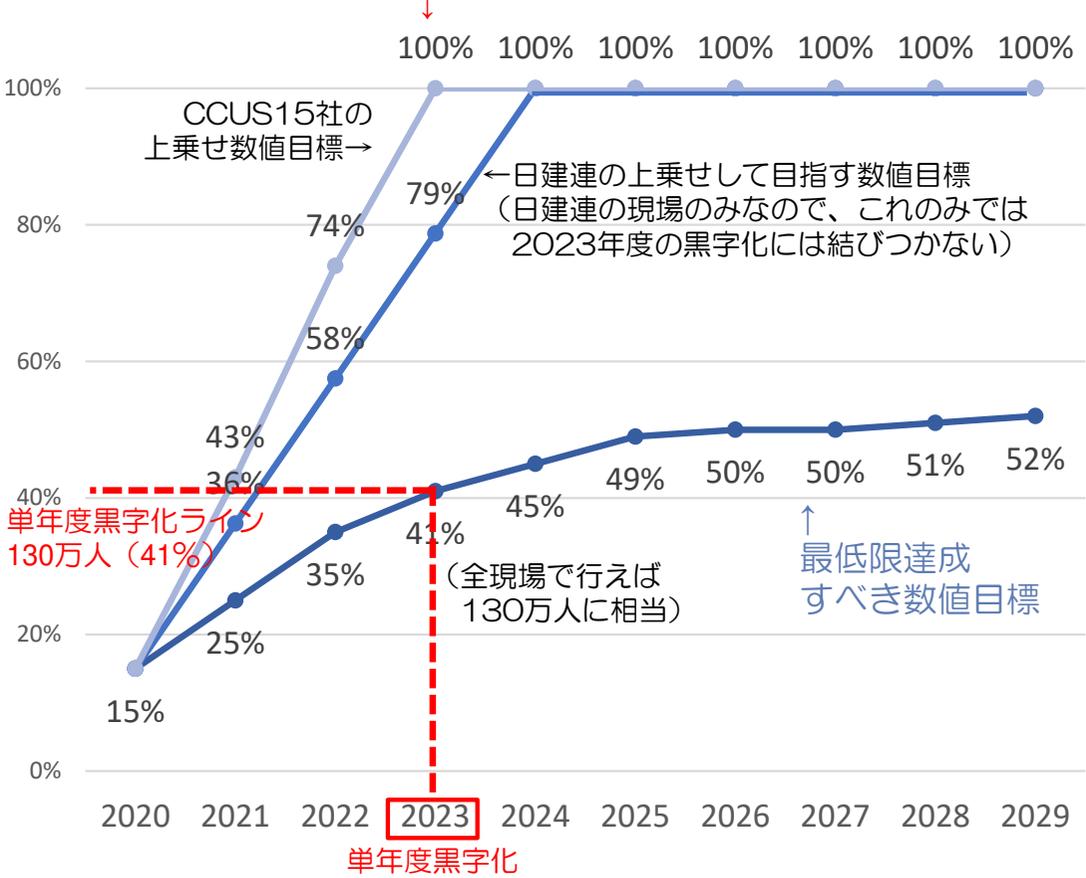
- 全ての現場において、10億円単位で、1年間で以下の数値以上の就業履歴蓄積がなされるよう、カードリーダー設置及びタッチ促進を図ること



日建連は、最低限達成すべき数値目標と、上乗せして目指す数値目標を設定する。

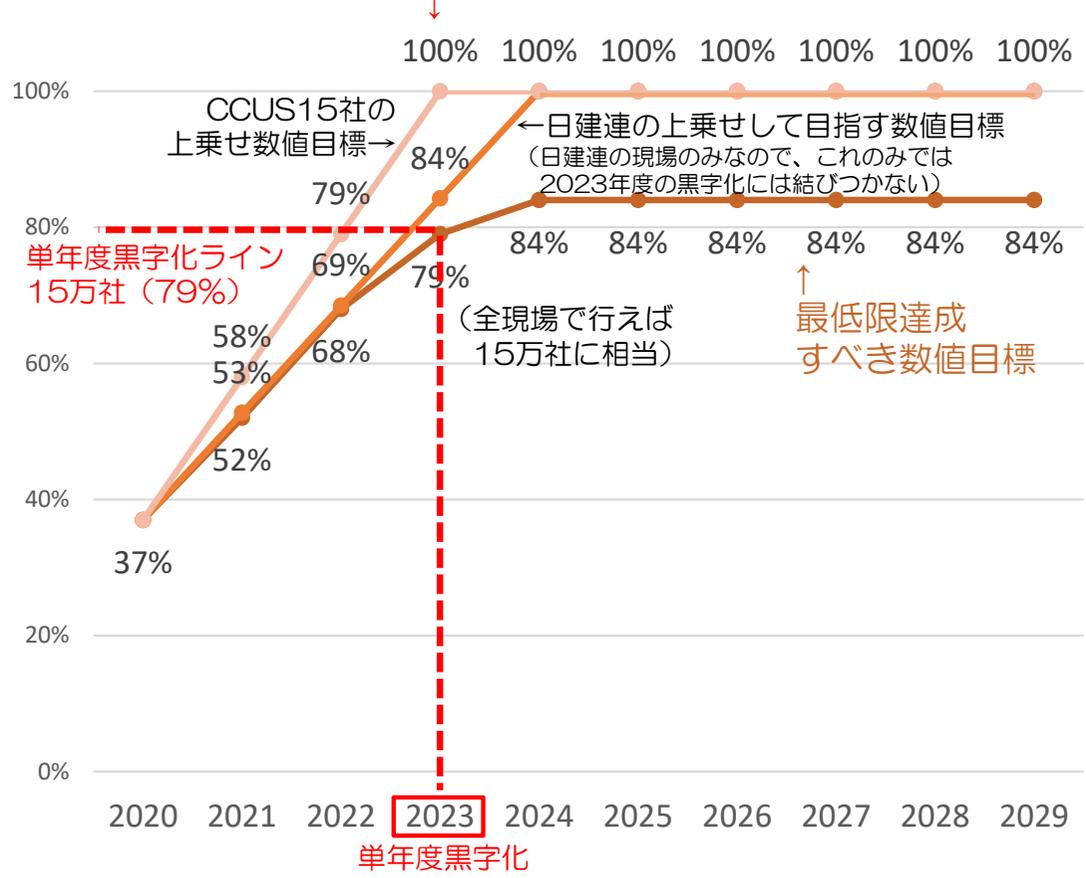
1. 技能者登録率

国交省において「2023年度からのあらゆる工事でのCCUS完全実施」(官民施策パッケージ)を実現



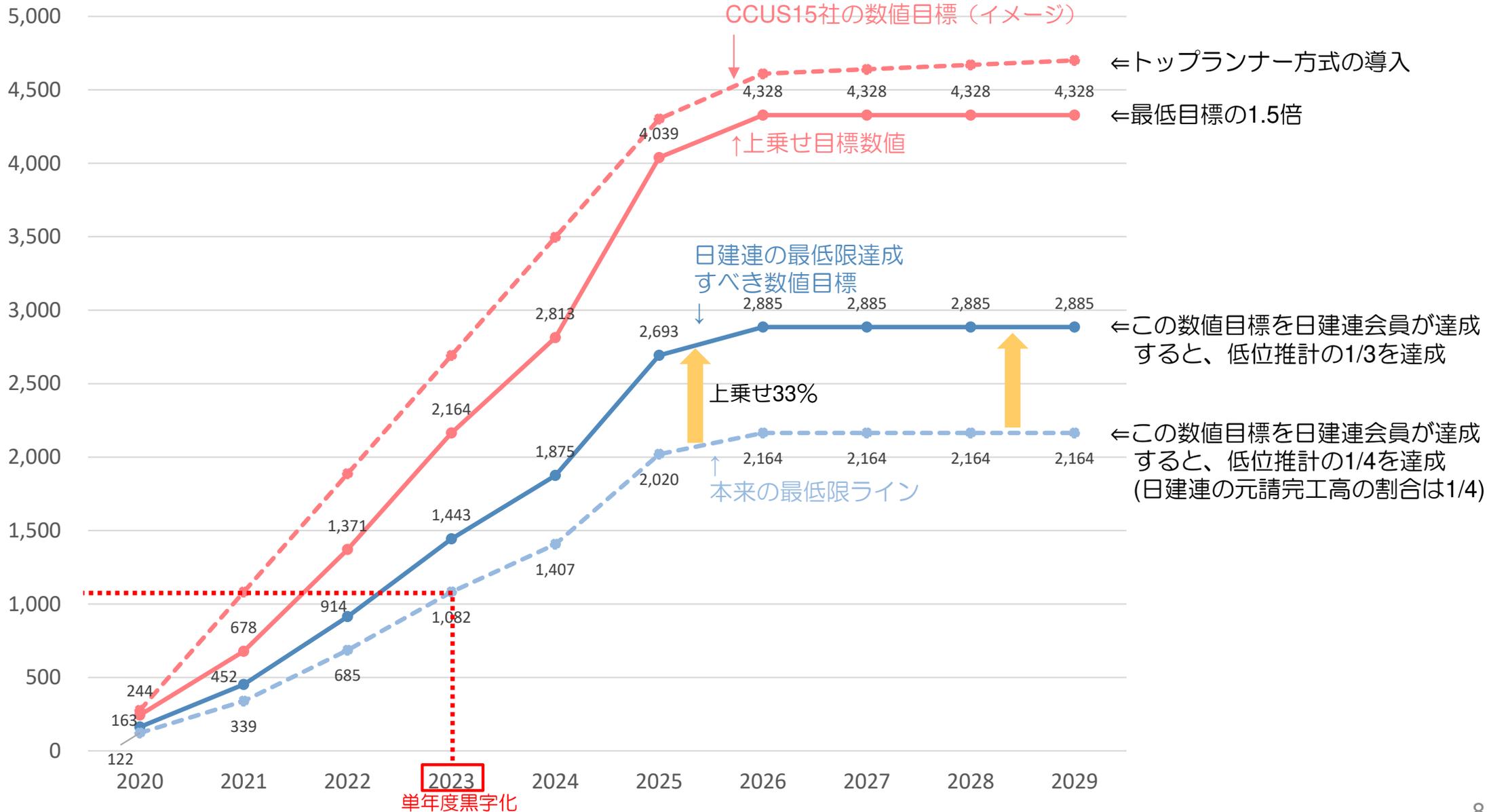
2. 事業者登録率

国交省において「2023年度からのあらゆる工事でのCCUS完全実施」(官民施策パッケージ)を実現



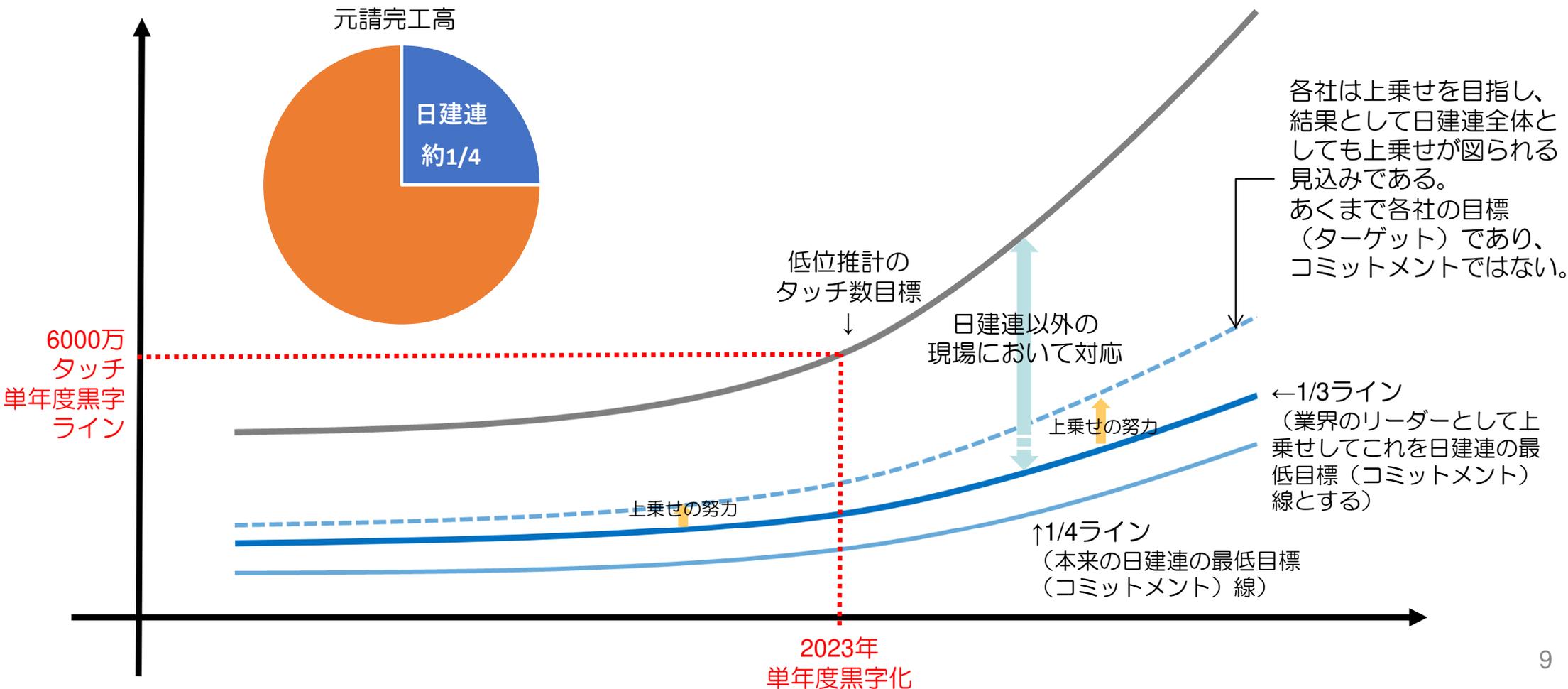
(参考) 日建連の数値目標②

3. タッチ数（国内元請完工高10億円当たり）



(参考) タッチ数の日建連目標と低位推計の数値目標との関係

日建連の完工高シェアは約1/4であるが、業界のリーダーとして、日建連は低位推計タッチ数の1/3を最低目標とすることから、**低位推計の1/3までは日建連が責任を持って対応**。現場の技能者割合を鑑みても、残り2/3は他の元請(団体)において対応することを想定。ただし、1/3は日建連の最低ラインであり、各社の取組目標はこれより上に設定されているので、各社の努力により、結果として日建連加盟会社の合計は上乘せが期待できる。**日建連は上乘せにも全力を尽くす**。



(参考)新目標の考え方 就業履歴蓄積数（コミットメント）

日建連会員の受注高・完工高ともシェアが1/4程度※であることから、低位推計における各年度推計値の1/4を目標とすることが考えられるが、業界のリーダーとしてCCUS普及の先頭を走ってきた日建連としては、上乘せして1/3を最低目標(コミットメント)とする。

※日建連会員の受注シェア：

日建連会員の国内受注高／元請受注高(建設工事施工統計調査)

日建連会員の完工高シェア：

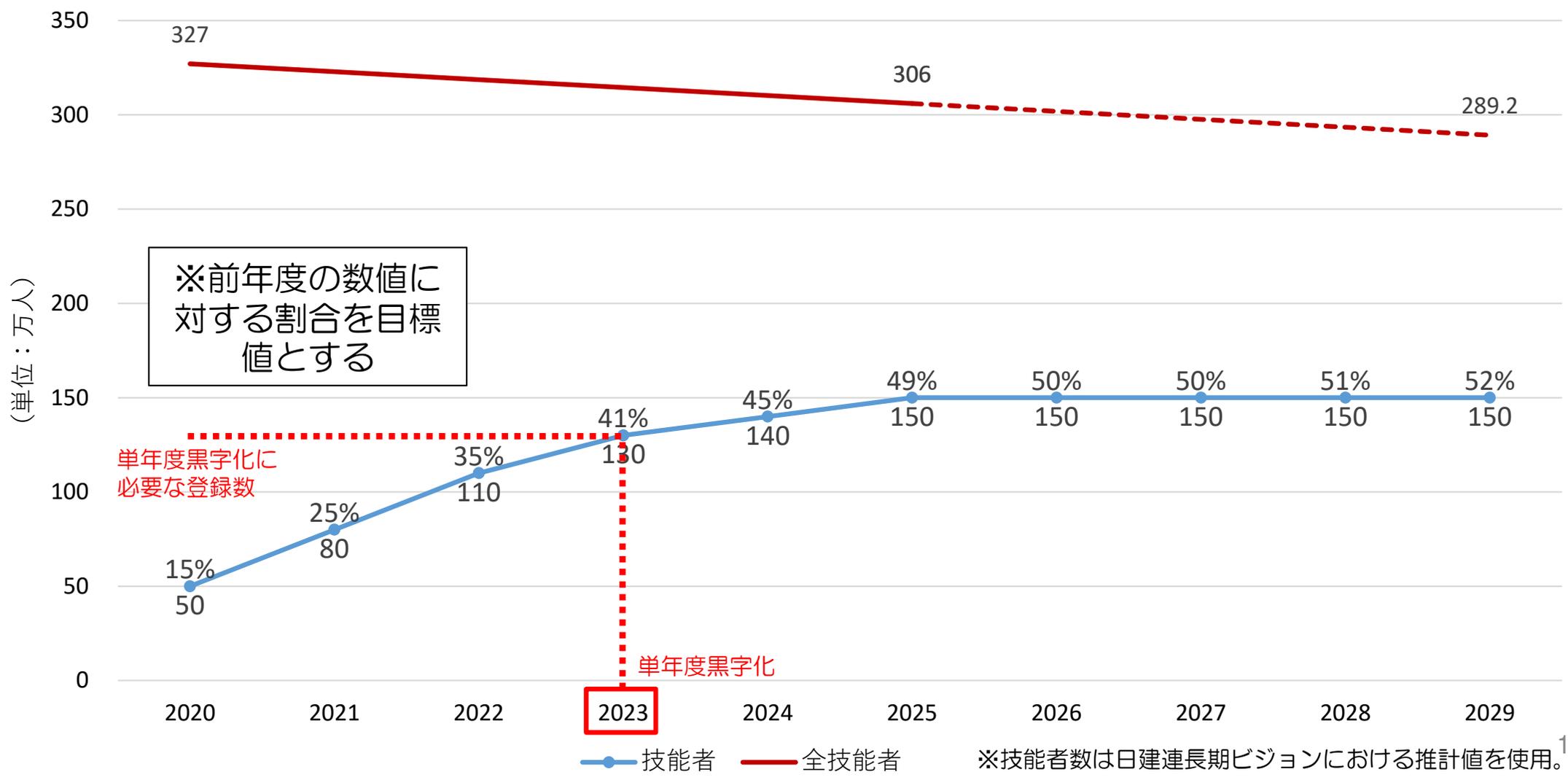
日建連会員の完工高／元請完工高(建設工事施工統計調査)

□会員各社の目標

- 上記日建連目標達成のため、会員各社においては完工高割に応じて目標を設定。(例えば、2023年度以降は国内元請完工高10億円当たり1,443タッチ／年を最低目標(コミットメント)とする。)
- また、最低目標(コミットメント)の1.5倍を上乘せ目標数値とする。(例えば、2023年度以降は国内元請完工高10億円当たり2,164タッチ／年を上乘せ目標(ターゲット)とする。)
- さらに、CCUS15社はトップランナー方式に基づき、更なる上乘せ目標(ターゲット)を設定する。

建設技能者全体に占める低位推計における各年度の登録技能者数の割合を日建連会員の現場（または協力会会員会社）における技能者登録率の目標とすることが考えられる。

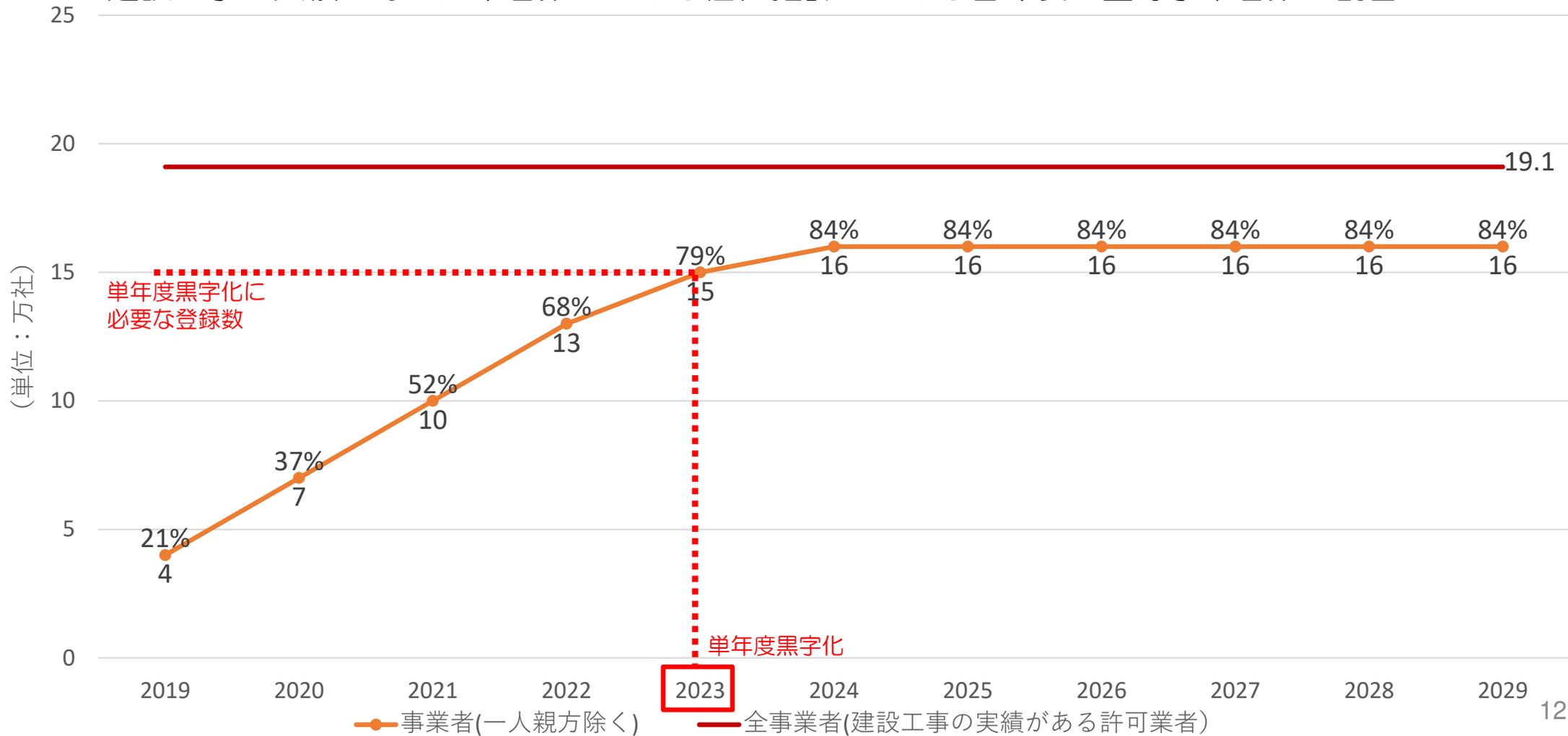
全技能者に占める低位推計における各年度の登録技能者数の割合



(参考)新目標の考え方 事業者登録率 (コミットメント)

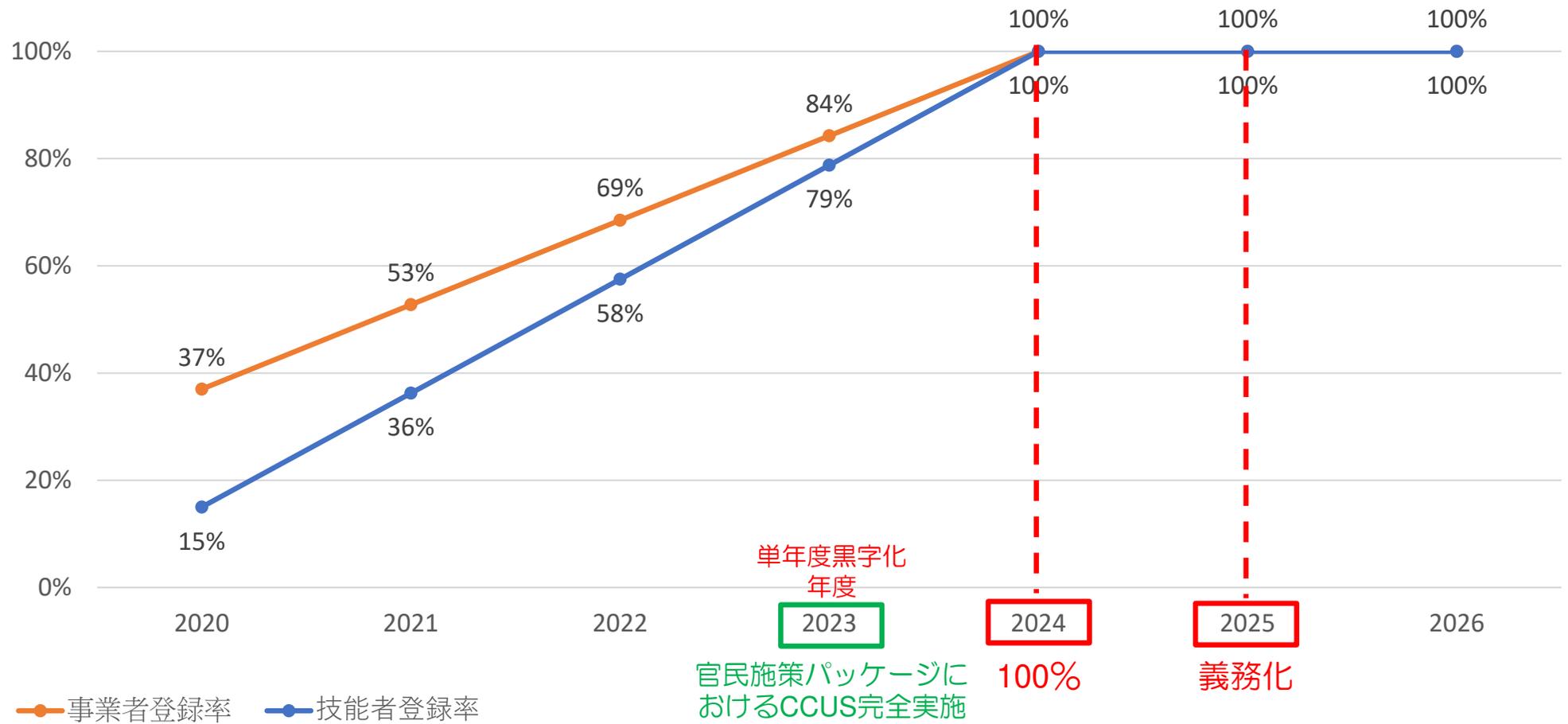
建設工事の実績があった業者数※に占める低位推計における各年度の登録事業者数の割合を日建連会員の現場で施工体制登録されている事業者（または協力会所属企業）における事業者登録率の目標とすることが考えられる。 ※ 建設工事の実績があった業者数 19.1万社（2018年度建設工事施工統計調査）

建設工事の実績があった業者数に占める低位推計における各年度の登録事業者数の割合



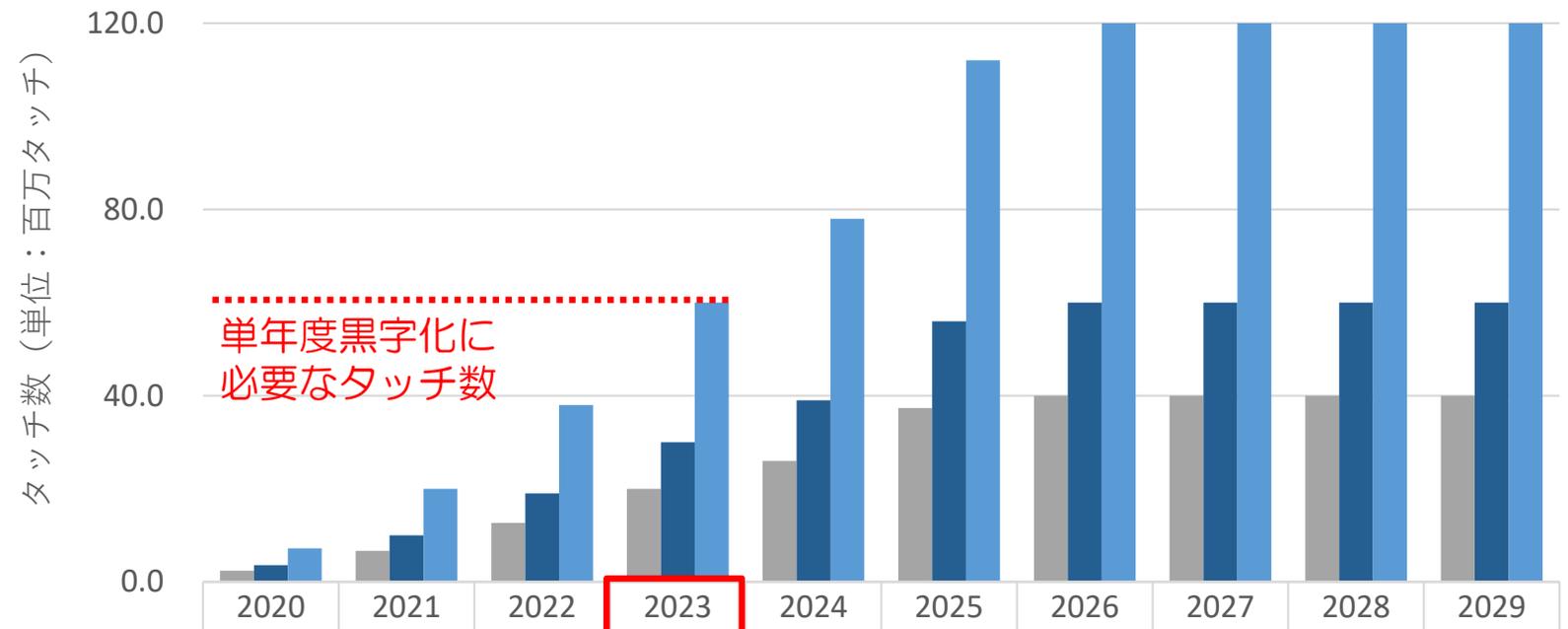
官民施策パッケージには「2023年度からのあらゆる工事でのCCUS完全実施」とあるが、詳細な時期は示されていないため、日建連では、**技能者登録率・事業者登録率は次年度の2024年度に100%を目指し、各年度の目標数値を設定。**

(推進本部15社は1年前倒しの2023年度に100%を目指し、各年度の目標数値を設定。)



(参考) タッチ数の目標 (低位推計とコミットメント・上乗せ目標)

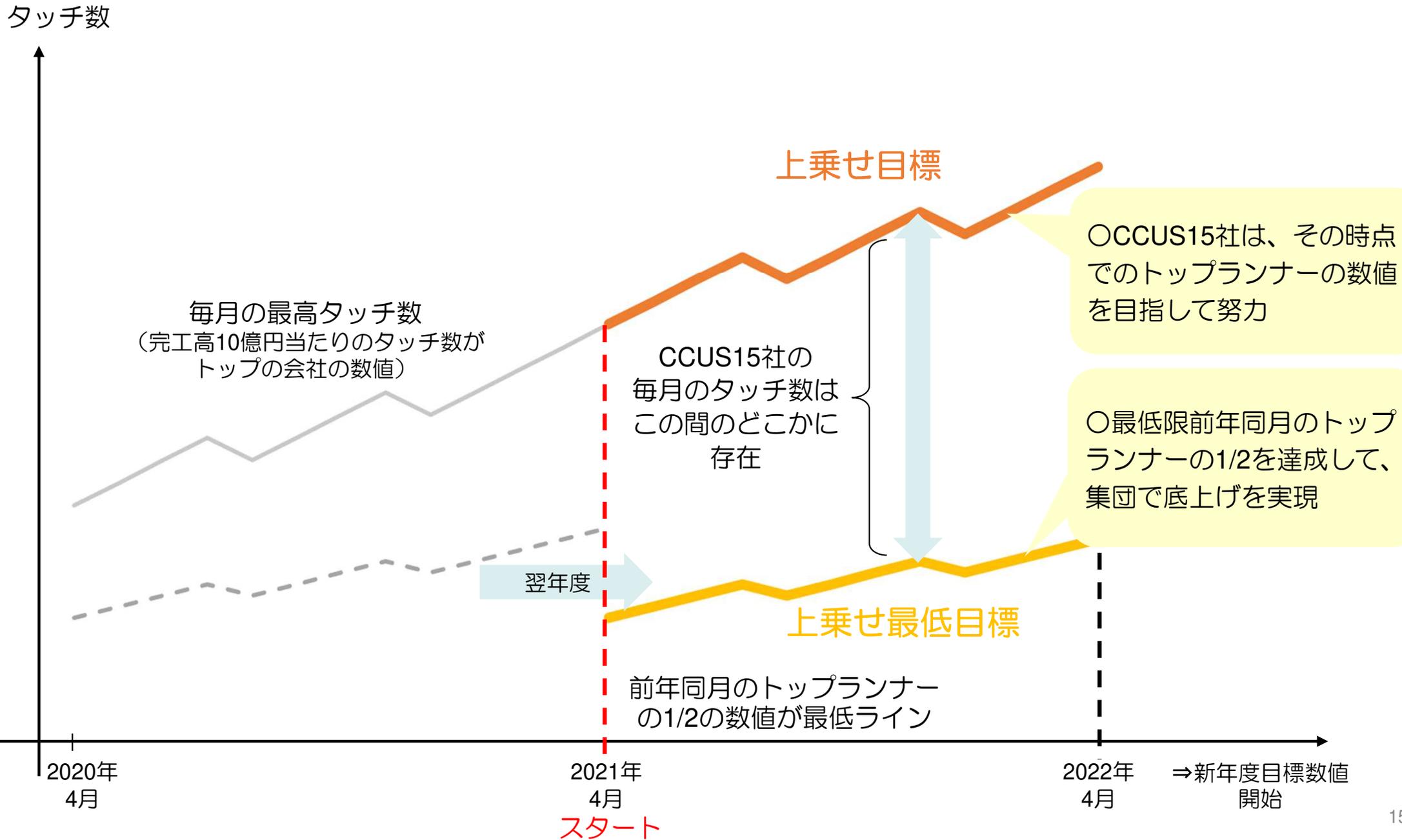
- 日建連は、元請完工高割合の133%に当たる低位推計タッチ数の数値の全体の1/3につき、責任を持って対応する。
- 日建連各社は、さらにその1.5倍を目標 (ターゲット) とすることを原則としていること、CCUS15社については、更に上乗せしてトップランナー方式を導入していることから、会員企業の努力により、この上乗せの目標数値が達成されれば、コミットメントの1.5倍が達成される。



	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
■ 1/3 (コミットメント)	2.4	6.7	12.7	20.0	26.0	37.3	40.0	40.0	40.0	40.0
■ 1/3 × 1.5 (上乗せ目標が達成された場合に実現する数値)	3.6	10.0	19.0	30.0	39.0	56.0	60.0	60.0	60.0	60.0
■ 低位推計	7.2	20	38	60	78	112	120	120	120	120

単年度黒字化年度

(参考)CCUS15社の上乗せ目標数値 (イメージ)



■ 最低限達成すべき目標数値

低位推計の1/3 ÷ 日建連会員の国内元請完工高(十億円単位)

ex) 2022年度

$$12,666,667(\text{タッチ}) \div 13,862(\text{十億円}) = 914(\text{タッチ} / \text{国内元請完工高10億円})$$

■ 上乗せ目標数値

① 全社

最低限達成すべき目標数値 × 1.5

ex) 2022年度

$$914(\text{タッチ} / \text{国内元請完工高10億円}) \times 1.5 = 1,371(\text{タッチ} / \text{国内元請完工高10億円})$$

② 推進本部15社 (「トップランナーの50%」の計算方法)

「前年同月の各社タッチ数 ÷ 各社国内元請完工高(十億円単位)」のトップランナー × 0.5

(参考)国交省推計と日建連(旧)目標の比較

	2020年度		2022年度	
	国交省 (低位推計)	日建連 (ロードマップの中期目標)	国交省 (低位推計)	日建連 (ロードマップの最終目標)
技能者登録	50万人	登録現場に入場する技能者のカード保有率80%以上を目指すとともに、 <u>70万人</u> の技能者登録	110万人	登録した現場に入場するすべての技能者 ※登録現場においてはカードを保有しない技能者の入場を原則として認めない
事業者登録	7万社	登録現場に入場するすべての事業者	13万社	登録現場に入場するすべての事業者
現場登録	-	現場登録率80%以上	-	現場登録率100%(原則すべての現場において登録を行う)
就業履歴蓄積数	720万タッチ	就業履歴蓄積率 [※] 50%以上	3800万タッチ	-

※就業履歴蓄積率：「CCUSの普及・活用に向けた日建連の推進方策(2020)」で追加。登録現場における総出面に対する総カードタッチ(事後修正分を含む)の割合。